

基礎医学委員会（第 26 期・第 4 回）

議事要旨

I 日 時 令和 7 年 4 月 15 日（火）12：00～13：20

場 所：日本学術会議 6-B 会議室及びオンライン会議システム併用

（東京都港区六本木 7-22-34）

参加者（五十音順、敬称略）

（現地）五十嵐、岡村、金井、狩野、西谷、古屋敷、山田、柚崎、渡辺、（オンライン）

佐々木、安友

（欠席）加藤、神田、野田、米田

II 議 題

(1) 分科会の活動状況ならびに活動方針について

各分科会委員長より、活動状況の報告があった。

形態・細胞生物医科学分科会（渡辺委員）

高校生を対象としたシンポジウムを 2025 年 8 月に東京大学医科学研究所にて、ハイブリッド形式で開催予定であり、その中で高校生と研究者との交流会を企画している。

IUPS 分科会（岡村委員）

2025 年 9 月にフランクフルトで開催予定の IUPS コングレスに対し、企画段階から積極的に関与している。次回以降のコングレスの招致を検討中である。

神経科学分科会（柚崎副委員長）

第 25 期から継続して審議している脳倫理に関する見解の発出に向けた作業を進めている。また、分科会内で、研究力強化、とくに「雇い止め問題」に関する調査と討議を行い、その結果を 2025 年 3 月に日本学術会議「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」で共有した。

IUBMB 分科会（五十嵐委員長）

2024 年 9 月にオーストラリアで開催された IUBMB 総会に、所属委員 2 名および生化学会会員 1 名を派遣し、意見交換と審議に參加した。2024 年 11 月開催の分科会では、IUBMB および下部組織である FAOBMB の運営状況や今後の課題について意見交換を行った。

IUPHAR 分科会（古屋敷委員）

2024 年 11 月、韓国済州島にて韓日薬理学合同セミナーが開催された。2025 年 3 月に開催

された日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会の合同大会では、IUPHAR 理事長とオーストラリア薬理毒性学会 (ASCEPT) 前理事長を招聘し、分科会のコアメンバーと対面で意見交換を行った。2025年12月には、日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティングが東京で開催予定である。

ICLAS 分科会

関係委員不在のため書面での報告となった。

機能医学分科会（金井委員）

機能医学に関する諸課題を抽出し、とくにその概念の更新・再構築について議論を行った。2025年3月に開催された日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会合同大会において、シンポジウム「基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケア」を開催した。

アディクション分科会（西谷幹事）

2025年2月に第2回分科会を開催。市民公開講座の報告、オピオイド鎮痛薬の全国アンケート調査の報告、またアルコール・薬物・市販薬・ゲーム・ギャンブルなどに関するアディクションの課題について意見交換を行った。アディクション研究センターの設置に向けた討議も行った。

動物実験分科会

関係委員不在のため書面での報告となった。

分科会活動報告の後、狩野委員より、文部科学省人材政策課人材委員会における人材政策の検討について情報共有があった。その後、研究者および技術者のキャリアパスについて基礎医学分野に特有の課題と、それに対する日本学術会議の果たすべき役割について意見交換が行われた。

(2) 「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」基礎医学委員会ヒアリングについて

2024年12月に実施された研究力強化委員会からのヒアリングに際し、収集された資料が共有された。研究者および技術者のキャリアパス整備の重要性が再確認されるとともに、企業と大学の人材交流に関する意見交換が行われた。

(3) 基礎医学委員会が関連する見解および提言について

神経科学分科会による脳倫理に関する見解の発出に加え、健康食品・機能性食品に関する提言の発出も準備中である旨、五十嵐委員長より説明があった。

(4)その他

渡辺委員より、2025年8月に北海道で開催予定の部会の内容について説明があった。研究力と人材育成について、基礎医学領域に特有の問題を中心に意見交換の場を設ける必要性などについて意見交換を行った。また、日本学術会議法案に関して提出された議案について討議が行われた。